

2. アメリカの米栽培の歴史

アメリカでの商業的な稲作は、1685年サウスカロライナにて当時の植民者の手により始められたといわれる。通説では、サウスカロライナの稲作は、嵐によりチャールストン港に避難してきたマダガスカルからの船の船長より植民者に贈られた一袋の種籾に始まるとのこと。サウスカロライナの低湿地の多い東部沿岸地方は、他の作物には不向きであったが稲作に適しているとし、米が当時の植民地作物として選ばれたといえる。1600年代の終わりにはチャールストン港より米の輸出がされるまでとなった。そして1726年には4,500トンの米がチャールストン港よりイギリス向けに輸出されたという。その後稲作は徐々に東部沿岸諸州に広がっていった。

ルイジアナ州での米の生産は1718年より、フランスからの植民者により始められたとされるが、サウスカロライナの稲作の目的と異なり、主に低所得の農民又は労働者の食糧生産が目的で始まったという。しかし1850年頃蒸気エンジンを利用しての大型ポンプの導入により広範な灌漑が可能と成った事、又1884年同州南西部平原で小麦やトウモロコシ用の大型の農業機械を導入した新しい稲作が開発された事等で、同州の小規模で労働集約的な稲作は、機械化された大規模な商業的農業へと急速に転身して行った。1880年代に入りこの商業的稲作はテキサス州(ボーモントの西)へと広がっていった。

現在全米第一位の生産高を上げている(全国生産高の約45%以上を生産する。)アーカンソー州の稲作は1902年に始まったという。同州の稲作は、当初より米を商品として生産する事を目的としたもので、広大な土地に大型機械を取り入れた、資本整備型農業であった。1900年代に入り、品種改良及び稲作技術の研究が進む一方、精米業界、生産者等が協会を結成する等、アメリカの米産業は急速に組織化された産業として成長していった。

1850年代当時のカリフォルニアには、ゴールドラッシュや鉄道建設の労働者として移住して来ていた中国人が4~5万人住んで居たという。その後も東洋系移民者は増加し、彼らの食糧として1870年代~1880年代には2万トン前後の米が毎年輸入されていたという。この様な当時の事情を背景に、稲作への取り組みは1870年頃より何度か試みられた模様であるが、成功しなかった。1906年に農務省土壌調査局(Bureau of Soils Survey)の技術者によるサンフォアキン平野での稲作試験に続き、1908年には官民共同でサクラメント平原の黒色重粘土質土壌に長粒種に加え日系の品種(渡り船、神力等で一般に九州米と称された品種)の作付け試験が開始された。稲作試験はその後も繰り返し実施され、日系の短粒種の成績が良好であることが確認されるに至った。1912年にビッグスとリッチヴェルの町を中心に18の農場が、初めて商業目的として米(主に日系の短粒種)の栽培を実施した。作付面積は、合計1,295エーカーであったという。これを契機にカリフォルニアは、ジャポニカ系の短粒種米の生産州として急速に発展していった。品種改良が進むに連れ1955~60年を境にそれまで凡そ98%を占めていた短粒種の作付けが急激に減少し、代わりに高単位収量の中粒種の栽培が増加していった。現在カリフォルニアでは、サクラメント平野を中心に凡そ50万エーカー強の土地に米が作付けられている。その作付面積の90%以上の圃場に中粒種が作付けられている。

1685年にサウスカロライナで始まった商業的稲作は、200年後にはルイジアナ南西部やテキサスへと広がり、更にアーカンソー等の平坦で広大な土地における大型機械を投入しての稲作へと進展している。1912年に西海岸のカリフォルニアが加わり、新たな米生産地域が形成されて行った。一方、1900年代に入りサウスカロライナ等の東部沿岸諸州での多大な労働力を投入しての稲作は、市場競争に負け急激に姿を消して行った。1960年代に入ると、米の主要生産州は、アーカンソー、カリフォルニア、ルイジアナ、テキサス、ミシシッピそしてミズーリー等に限定され、今日に至っている。